

EE-7 拡大家族の住居観—(その2) 農村における拡大家族の同居観
 広島県庁農業改良 ○白野勝子 広島工大建築 西川加純

目的 広島県下の農村における同居家族の現況を把握し 問題点を解明し 今後の住生活指導の参考にしたい。

方法 ○調査対象と方法(回収率93%)—県下17ヶ所(1ヶ所10戸)村づくり推進事業実施地区の2世代同居家族163戸(内専業農家64戸)に対し生活改良普及員を通して調査した。

○記帳者—同居家族のうち若い方の主婦 ○調査時期—46.7~10月

結果 調査地17ヶ所(1205戸)の家族形態は次の如くである。これによると59%が同居家族である。したがって同居家族の住生活のあり方を追求することは農村の住生活の方向づけに得られるものと調査を実施した。その主な事項は次の通りである。

単独家族	2世代家族	3世代家族
38%	56%	3% (30世帯)

- 同居に対する考え方
 - 同居と家族の家事分担
 - 同居の形式(別棟、同棟の別)等
- 以上の結果を考察し、その他の文献を参考に今後の住い方の具体的試案を出してやる。

- 同一敷地内に分る。
- 別棟を建てた上とする。
- 2つの世代各々を核とする。各々に簡単な駐車場、便所をつける。
- 家事の分担をやる(経済的分担、労働的分担、子供のしつけ、教育の分担)
- 相牛の立場にたつてものを考へる。
- 2つの核はお互に意見の交換をフランスに行う。
- 2つの核はせきぎれで接触するようにつとめる。